

2020 年度  
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会



## 目 次

法人本部	4～7
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	8～12
津名デイサービスセンター	12～14
千鳥会居宅介護支援事業所	14～15
千鳥会在宅介護支援センター	15
家族介護教室・家族介護者交流事業	15
高齢者住宅等安心確保事業	16
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	16～17
ゆうらぎデイサービスセンター	17
ゆうらぎ訪問介護ステーション	17～18
養護老人ホーム 北淡荘	18
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	18～19
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	19
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	19～20
ちびっこランド ちどり	20
グループホーム しおさい	21
しおさいデイサービスセンター	21
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	21
佐野デイサービスセンター	21
千鳥会福祉用具貸与事業所	22

## 2020年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

### 1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
理事会	2020年6月8日	千鳥会 法人本部	6/6	①2019年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ②2019年度 社会福祉法人千鳥会 第二次補正予算の件 ③2019年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ④2019年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ⑤社会福祉充実残高の算定について ⑥定款変更の件 ⑦定時評議員会開催について	なし	宮尾慶子 船越洋子
評議員会	2020年6月22日	千鳥会 法人本部	7/8	①2019年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ②2019年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ③2019年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ④社会福祉充実残高の算定について ⑤定款変更の件 ⑥役員構成の件	川端英雄	宮尾慶子 船越洋子
理事会	2020年12月21日	千鳥会 法人本部	5/6	①2020年度 社会福祉法人千鳥会 第一回補正予算の件 ②小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり 外壁改修工事の件 ③役員構成の件	高野さち	宮尾慶子 樽野敏朗
理事会	2021年3月22日	千鳥会 法人本部	6/6	①2021年度社会福祉法人千鳥会 事業計画の件 ②2021年度社会福祉法人千鳥会 予算の件 ③諸規定変更の件 ④役員構成の件	なし	宮尾慶子 樽野敏朗

### 2. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし				

### 3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目/実施場所	参加人数
職員福利厚生事業	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員親睦会(各事業所)	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員健康診断 (前期・後期)	2020年8月	ゆうらぎ・北淡荘・本部	97名
	2020年8月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	90名
	2020年8月	ほほえみ・ちびっこランドちどり	66名
	2021年2月	ほほえみ	20名
	2021年2月	ゴールド・しおさい・ぬくもり	35名
	2021年2月～3月	ゆうらぎ・北淡荘	35名
職員腰痛検査	2020年7月～8月	ゆうらぎ・北淡荘	80名

(前期・後期)	2020年8月	ほほえみ	49名
	2020年10月～11月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	77名
	2021年2月	ほほえみ	47名
	2021年3月	ゆうらぎ・北淡荘	74名
	2021年3月～4月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	78名
インフルエンザ 予防接種	2020年11月	全事業所	255名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

#### 4. 入社式（入職者）・退職者

入社式	新入職員数
2020年4月1日	5名
2020年6月1日	4名
2020年9月1日	6名
2020年10月1日	3名
2020年12月1日	9名
2021年2月1日	8名
合計	35名

月	退職職員数
4月	1名
5月	1名
6月	2名
7月	1名
8月	5名
9月	6名
10月	2名
11月	2名
12月	3名
1月	0名
2月	1名
3月	7名
合計	31名

#### 5. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	1名
育児休業	1名
短時間勤務	1名

#### 6. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	2件
自己啓発支援	報奨金	実務者研修修了	5件
自己啓発支援	報奨金	介護職員初任者研修課程	1件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉主事	3件
自己啓発支援	報奨金	住環境コーディネーター2級	1件

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっ こ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○	○					
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続ける為には介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める事も重要である事から、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。	○		○				
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修 (委託事業)	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○	○					
地域サポート型施設 (兵庫LSA又見守り活動)	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に24時間体制の見守り等を行う。	○	○	○				

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの（公的制度の給付対象となっていないもの）

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっ こ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	
職場体験 (トライやるウィーク)	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○		○	○		
祭り地域交流 (春・夏・秋)	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。	○	○	○	○		○	
各種ボランティア(慰問等) の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○
いきいき100歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき100歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。		○	○			○	
訪問サービス (介護保険外事業)	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○					
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○	○	○				
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサービス実施	○						
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託(無料)を受けて受講者にも無料で実施。	○		○				
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○				
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。							○
デイサービス (夕食サービス)	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。		○	○				
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目	○	○	○	○	○	○	○

	的に、三洋電気洲本工場OB団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。								
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、NPO法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1～2日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○	○	○					
ケアローソン (介護相談窓口)	高齢化や健康意識の高まりを受け、社会の変化に対応した次世代コンビニモデルの構築に取り組む。通常のコンビニ機能に加え、ケアマネジャーなどの相談員が駐在する介護相談窓口や、地域の方の交流の場として活用できるサロンスペースも店内に併設している。	○	○	○					
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。	○	○	○					
日本財団自動販売機設置	飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付する。	○	○	○					
寄っていかんか千鳥	ご利用者が作った作品を、誰かが買ってくれることで、ご利用者に自身の価値・存在を感じ、認めてもらうために実施。また、その中で世代間交流や地域とのつながりを持ち、地域の方の集いの場所にする。	○							
中学校出前授業	介護の魅力、必要性、社会情勢等、介護の現場を知ってもらう目的として実施。	○	○	○					
高校福祉授業	福祉についての理解を深める為に、「認知症サポーター養成講座」等を実施。	○							

## 7. 情報公表サービス受審

### ■ 第三者評価

しおさい しおさいデイ	2021年3月30日
----------------	------------

### ■ サービス評価（淡路市提出日）

ぬくもり	2021年3月12日
小規模ほほえみ	2021年2月19日

### ■ 指導監査

ちびっこランドちどり	2021年2月15日
------------	------------

## 8. 総括

昨年新型コロナウイルス一色になった一年でした。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言発令、移動の自粛、3密の回避など、何もかも手探りの状態で、感染拡大防止と社会経済活動維持の両立を図ることに誰もが不安を抱えながら過ごした1年だったように思います。

千鳥会もコロナ禍により予想しない状況となり、感染予防対策より毎年実施してきた各事業所の祭りも中止となり、面会の制限やあらゆる行事も縮小・中止となってしまいました。このような状況でしたが、新しい取り組みとして、オンライン面会やオンライン行事・研修など対面式では難しいのであれば、デジタル化を活用し、少しでも今までの事を継続できる取り組みを、皆様のご協力を頂きながら進めて参りました。

このような状況下だからこそ関係する皆様に笑顔に出来るよう努め、しっかりと各事業所の情報をお伝えしていきたいと考え、様々なツールを利用して情報発信して参りました。

コロナ禍はまだ続きそうですが、地域との繋がりを大切に、ご利用者が安心・安全な生活を送る事ができるよう努めて参ります。

## 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

### 2020 年度事業所総括

#### (1) 特養部総括

1-1 予防処置を立案し、アケント、インシデントの軽減に繋げる。

→予防処置としてユニット会議や勉強会で危険予測をする事の重要性を職員自身が意識する能力が上り軽減に繋げる事ができた。

1-2 利用者個々のニーズを汲み取り、その思いを全職員で応えていくようにし利用者の生活の質の向上に努める。

→新型コロナウイルスの影響で会議の開催が実施出来ない事が多かったが他職種とも連携を図り少しでも利用者個々のニーズに応えるように努めた。

2-2 利用者の生活が施設やサービスの中で完結することなく、家族や知人・友人・地域住民との関係の継続、促進するよう支援する。

→新型コロナウイルスの影響で思うように関係が築けなかったが出前やおやつを外部にお願いし、関係が少しでも継続できるようにした。

3-1 地域における様々な福祉課題、生活課題に主体的にかかわり、多様な関係機関や個人との連携・協働を図り、既存の制度では対応できない公益的な取り組みを行う。

→新型コロナウイルスの影響で取り組みができなかった。

3-2 社会福祉法人も地域の社会資源の一つであることを自覚し、地域の拠点となる活動を行う。

→新型コロナウイルスの影響でイベントが開催できなかった。

4-1 地域住民の信頼・協力が得られるような様々な情報発信の取り組みを行い人材確保に努める。

→人材確保に繋がらなかった。

5-1・5-2 達成可能な目標をたて、結果を確認することでチームの活性化に繋げ良好な組織作りに努める。

→リーダーが主となり2階の1ユニット化を実施した事により、良い方向にむかっている。

6-1 福祉・制度や相談・援助・介護技術等のスキルの向上に加え、組織のルールや職場の人間関係、福祉に携わる者としての倫理観を持った職員の人材育成に努める。

→特に接遇面は接遇委員のメンバーが主となり意識が高まってきた。

7-17-2 職員ひとり一人がコスト意識を持ち、適正な収益を確保し、安定的な財務基盤を確立する。

→リーダーがコスト意識を現場職員に伝えていき、職員のコスト削減意識が少しずつ高まってきた。

#### (2) 事務職員総括

1-2. 5-1. 6-1 施設内の勉強会や外部の研修に参加をし色々な知識を身につけ御利用者・御家族が満足できるサービス向上に努め職員にとっても働きやすい環境づくりに努める。

→新型コロナウイルス蔓延の為外部研修の参加や施設内行事が中止になりサービス向上に繋がらなかったが新しい生活様式を取り入れオンライン面会が出来るようにしサービス向上に努めました。

2-1. 2-2 行政を含む多様な関係機関との連携・協力により地域にどのような支援が求められているかを把握し行政の動き等の情報収集・共有に努め家族や地域住民の生活課題が解決できるよう協力して行う。

→新型コロナウイルス感染症蔓延の為関係機関との連携が取れずインターネット等で情報収集に努めました。

3-1. 利用者・家族・地域住民の交流のサービス提供を他部署と連携し行う。

→新型コロナウイルス感染症が蔓延し夏祭りや寄っていかんか千鳥も中止になりサービスの提供が出来ませんでした。

4-1. 施設の魅力を提供するサービス内容をいち早く情報発信をし千鳥会の良さをアピール出来るよう努める。

→定期的に Facebook に御利用者の様子をあげサービス向上に努めました。

7-1. 7-2. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な予算管理執行を毎月確認し稼働率向上にむけ協力し経営状況と財務状況を正確に把握し財務管理に努める。

→新型コロナウイルス感染症の影響は最小限にとどめられたが入院者が増加し収益が予算達成出来なかったが経費削減に努め少ない職員で人件費を押えた効率的な施設運営が出来ました。

#### (3) 生活相談員兼介護支援専門員総括

1-1. 予防処置を積極的に立案できるよう、職員に意識付けや帳票の見直し等行っていく。

→予防処置の見直しはできなかったが、ユニット会議などで上げてもらうよう意識付けを実施。

1-2. 利用者の担当職員を中心に多職種と共同で利用者個々のニーズの把握、サービス実現、生活の質の向上に努める。

→ミーティングやケアプランの立案時、カンファレンス等に多職種共同で利用者個々のニーズの把握、サービス実現、生活の質の向上に努めた。

2-2. 家族や知人・友人・地域住民との関係の継続、促進できるよう、施設行事の立案、実行していく。

→新型コロナウイルス禍により、施設行事が実施できず、家族や知人・友人・地域住民との関係を構築できなかった。家族との繋がりを保つため、リモート面会を実施。

3-1. 3-2. 多様な関係機関との連携を通じて、地域のニーズを把握し、当事業所でできる取り組みを考え実行していく。

→地域サポート施設として見守りサービス、配食サービス、ふれあいの集いちどり、ケアローソン(介護相談窓口)を実施。

4-1. 特養での取り組みを外部に発信し、ブランド力の向上に努めていく。

→フェイスブックやごーどニュースにて特養での取り組みを発信した。

5-1. 5-2. 業務分担の明確化に努め、目標等の進捗状況の確認組織力の向上に努める。

→業務分担表を作成したが、定着が図れなかった。

6-1. 教育訓練や研修の内容を充実させ、福祉の専門職としての意識、向上を目指し、職員の質向上を図る。

→新型コロナウイルス禍により、集団での教育訓練は実施できなかったが、レポート形式にて教育訓練を実施することで、考える力、調べる力の向上が図れた。



7-1.7-2 法令順守に則った加算の算定、体制作りを行う。稼働率に関しては長期 97%、短期 100%を目指す。

→入退所の人数や入院の延べ人数が例年に比べ増加していた為、目標の稼働率は達成できず。

#### (4) 介護職員総括

##### 【2階ユニット】

1-1 ユニット会議などを通じて予防処置などの出来事や施設の設備に関して提案し、予防に繋げると共に情報共有を図りリスクの軽減に努める。

→ユニット会議の次第を利用し、提案内容の欄を作成し、ユニット会議の際に確認や、提案がない場合は職員に確認を実施。感染（コロナ）が流行し始めた事で会議実施が困難となったことで話し合いといった機会が減少となった。職員からリーダーへの提案や確認など口頭であった場合は会議の次第を活用するように伝え、提案欄の活用が少し見られ始めた。ただし、提案する職員に偏りがある。今後、さらなる個々の職員の危険予測への意識の向上が必要である。

1-2 日々のケアを通じて思いの傾聴を行うと共に、視線・行動・言動など得られる情報を分析し、利用者の隠された思いに気付く。また各委員会と連携し個々の目標ケアに繋げる事で、質の向上を目指す。

→日々のケアの中で感じ取られる意見は担当、またはリーダーへ伝達し、今後の課題に対して、リスク・メリット・利用者の思い・ADL・ケアの方針を明確にし、課題の方向性を検討するように実施・指導した。各係に書類の管理の振り分けを実施する事で、決まっている書類等は係をメインとしての活動が実施できた。

2-2 利用者の生活が施設やサービスの中で完結する事ないよう本人・家族より情報を収集し、関係の継続ができるよう行事の計画を実行する。

→感染予防の為、オンライン面会が主となった事で家族との関わりが減った中で、連絡する際やオンライン時に付き添い本人の様子を伝えるなどし、オンラインでは伝わりにくい日ごろの様子が伝わるように工夫実施。オンラインに来られない家族へは情報を伝える事が難しく、定期的に送るお便りの活用となる。

3-1・3-2 スタッフ個々がそれぞれの課題に対して主体性を持ち選ばれる施設の基盤作り・個々の能力アップを目指す。

→介護職員・千鳥会ゴールドの職員としてサービスとは？を普段の自分が身近な場面に置き換え、自分の身になりケアに取り組んでもらうよう指導。また場面で能力の向上が必要と判断した場合はリーダーと一緒に考え・どの部分への配慮や考えが必要であったかの見直しを行う事で職員個々の能力の向上へ繋げる。職員により能力の向上にばらつきがあり、今後も教育・指導が必要な職員もいる。

4-1 フェイスブックなど通じて外部に情報発信を行い、千鳥会の取り組み・千鳥会での生活が伝わるように工夫し興味を持って頂く。

→フェイスブックを通じて情報発信。第3者が見てアップ内容から施設のイメージに繋がる事を意識し不快に感じないよう写真の背景などにも注意し実施。

5-1・5-2 提案・実行・分析・見直し・結果を行い、チームとしての情報共有・団結を図る。

→4月より2階ワンユニット化に向け様々な業務の内容の見直し、個々の職員が混乱しないよう変更内容に対して理由付けや、狙い、実施する事でのメリット・デメリットの内容を文書作成し実施、実施後に内容のフォローアップを都度行い職員の声を聴き必要な部分・改善の必要性などを判断し細かに分析し、その都度上記の内容を作成し職員個々が同じ狙い・目的を持ってチームとして行動できるように実施。職員の意識にもムラがあり、都度個々の職員と話をし同じ目的・ケアが行えるよう日々の職員の行動・言動にも視野を向け指導を実施。まだ改善の必要性や問題点は残っているが、ワンユニットとしてのチーム化は形になってきている。

6-1 客観的に自分を見直しつつ謙虚さを忘れず福祉に携わる者として倫理観を持ちケアに取り組む。

→チームのリーダーとして模範となれるよう日々のケアの中で技術・知識・接遇、自問自答しケアや指導に取り組む。

7-1・7-2 職員一人一人がコスト意識を持ち需要・供給を理解し、業務の効率化・ムダがないか分析し都度見直しを行う。

→業務の効率化（①ケース記録の実施時間の削減。単語登録を個々の利用者のサービス内容と照らし合わせ、都度ケース更新やケアの内容の変更時に更新を実施する事で大きく打ち込みの時間の削減が行え、ケアの対応につなげる。②コロナ化の中で業者の707の行き来を中止した事で混乱にならないように文書作成し個々の職員の動き・他部署との連携の流れを明確に実施し作業効率の安定を図る。③ホリ交換の時間を見直し実施。④2階のワンユニット化での職員の個々の動きを明確にした事で当日出勤者がそれぞれ役割を理解し行動できるようにマニュアル化。⑤感染時色分けの実施を提案し実行する事で、感染時の対応時に細かな指示なくマニュアルにのっとり実施し看護・介護との連携を図り指示を出す時間の最小限化を実施。⑥ホリ交換やケアの技術の指導を実施し、効率よく、かつ丁寧を意識し取り組む事で汚染でのケアにかかる時間の削減。）

需要・供給を個々の職員への指導を実施。（①パットの値段を普段から意識できるように金額の高い物から低い順への表を普段から目につく場所に実施。職員もパットのコストに意識を向け時間に応じたパットや普段からムダがないように意識をし、ホリ交換では都度状況に応じて適切なパットの見直し表を作成し、他の職員は表をもとにケアを実施。また感じた事などをリーダーに情報を提示してくれ都度変更・見直しを実施。②夜間だけ紙おむつを使用している方1名に関してお試しで布ホリカバーを購入。購入より半年使用可能。1晩1枚64.7円を半年。洗濯などの水道代をも考えると約8千円の削減を実施可能であったが多数の方に実施は厳しく課題はあり。③業務の見直しを実施し1日1人と計算し12日分の職員出勤の削減（時間外やバイト）を実施したが、退職が2名あり配置職員が減少した事で時間外やバイトの出勤数が増えた。時間外の削減にはつながらなかった。）

##### 【3階ユニット】

1-1 利用者が快適に生活を送れるように、また事故の予防につながるよう予防処置を提案し、改善に努める。

→予防処置の提案までは行えなかったが、快適な生活を送れるように意見を出している。

1-2 利用者個々のニーズを把握する為、想いを傾聴するだけでなく、表情・行動・家族から情報を聞く等して情報収集し、次第やアセスメントシート等で情報共有する。利用者個人の目標に向けて職員全体で取り組み、日々の生活の質の向上に努める。

→新型コロナウイルスによるコロナ禍で、家族と直接会って情報を得る機会が減っている。利用者のケアプランの目標や注意する点を職員全体で話し合い、生活の質の向上に努めた。

2-2 家族や知人、地域との関わりを継続できるように外出や地域の催しへの参加を計画・実施する。

→新型コロナウイルスによるコロナ禍で、施設行事や外出等のレクリエーションが行えなかった。家族に対してはオンライン面会を実施し、少しでも家族との交流を行っている。

4-1 外部にどう伝えたいかを考えながら取り組んでいるケア等について情報発信を行い、千鳥会をアピールする。

→外部に使用する写真には、個人情報以外にもコロナ禍に合わせた工夫したユニットで取り組んでいる内容をフェイスブックにて情報発信を行っている。

5-1, 5-2 委員会等の各自の役割と目標、行動内容を明確化し、職員全体で協力しながら小さな目標を達成していき、反省と課題を確認していく。

→ユニットでは特に係の役割と目標を設定したが、実際の行動内容を明確化出来ず、目標を持って行動する事が出来なかった。

6-1 福祉制度、相談援助、介護技術等の知識や能力の向上に努め、また福祉に携わる者として自身の考え方・行動を振り返り、判断力と責任感の向上を目指す。

→新型コロナウイルスによるコロナ禍で、集まったの会議や勉強会が行えなかった。レポートで個人学習する機会があり、受け手だけでなく、自ら学ぶ為の情報収集を行えた。

7-1, 7-2 働きやすい職場環境・業務の分担や効率化を行い、また意識をもって経費削減に努める。

→不要物品の処分を実施し、また新型コロナウイルスへの感染症対策物品の購入等もあり、整理整頓に努めた。排泄用品の検討・変更を実施、また防水シートを使用しない方のリストアップ等、経費削減に努めた。

#### (5) 看護部総括

1-1 利用者の安心安楽な生活、安全な環境の提供の為に、危険予測に対する意識を持ち予防処置の立案、事故防止に努める。

→予防処置の立案までは出来ていなかったが、危険予測に対する意識付けはできた。

1-2 利用者一人ひとりの精神的・身体的ニーズを受け止め、尊重し、多職種と連携、協働することにより、生活の質の向上に努める。

→コロナ禍の生活において、利用者の精神的・身体的な状況が変化している。他職種との連携・協同により利用者のニーズに向き合い、生活の質の向上に取り組むことができた。

2-2 利用者の生活が、施設の中だけでなく、家族や知人・友人・地域住民との関係が継続できるよう支援する。

→面会制限により、利用者とは会うことができない状態であった為、出来るだけ丁寧に、日々の生活や状態について、連絡時に伝えられるよう努力した。

5-1・5-2 情報交換・情報共有に努め、福祉に携わる者としての倫理観を持ち、良好な人間関係の確立を図る。

→他職種間、看護間の情報交換・情報共有を大切にし、良好な関係づくりに努めた。

6-1 福祉の専門職としての意識を持ち、的確な判断が出来る力を身に着けるようスキル向上を図る。

→福祉の専門職としてのスキル向上に取り組み、状況に応じた判断力を養えるよう努力した。

7-1. 7-2. 経費削減意識を持つとともに、業務の効率化に取り組む。

→在庫管理を行うことで、必要・不必要を確認出来、発注量を減らすことができた。また、業務の効率化に取り組み、改善する事が出来たが、今後も検討していきたい。

#### (6) 管理栄養士総括

1-1. 食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、調理業務（委託会社）支障がでないようにする。

→委託会社とも伝達や連絡を行い、食事提供、業務に支障はなかった。

1-2. 利用者、家族と関わる時に、その人らしい生活を継続する為の情報収集ができるような関係を築き、食事等に反映していく。

→カンファレンスやアンケート等で家族や利用者に関き取りを行いました。

3-2. 夏祭りでの模擬店の出し物等を利用者、地域の方に喜ばれる内容にし、千鳥会の取り組みを理解してもらう。

→今年度は新型コロナウイルスがあり、大きな行事を実施することができなかった。

4-1. ユニット等で行う調理レクの時、厨房が関わる場合、スムーズに連携できるよう段取りし、SNSに上げられるよう協力する。

→今年度は新型コロナウイルスのこともあり、クッキングレクが少なかったが、厨房から提供した行事食等を利用者と共に SNS に上げて発信できた。

5-1. 6-1. 職員間の情報交換・共有に努め、福祉制度の知識や栄養等のスキル向上を目指す。

→外部研修もリモートになることで、参加しにくかった研修に参加することができた。

7-1. 7-2. 安全な食事提供を維持しつつ、安定した食材管理と無駄を無くし、経費削減に努める。

→利用者が少ない時は、食数を減らすことで無駄に仕入れることなく、物価も維持していたこともあり、安定した管理ができました。

#### (7) 地域支援事業総括

##### 【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

できるだけ住み慣れた地域で自分の力で、活動的な生涯を送りたいという願いを現実のものとするために、要介護、要支援状態になる前から、一人ひとりの状態に応じた予防対策を図るとともに、要介護状態になった場合においても、地域で自立した日常生活を送ることを目的として地域支援事業が実施されます。地域支援事業は介護サービスや、介護予防サービスと並び、介護保険制度の3つの柱の一つとして考えています。2020年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防対策を徹底した上での実施となり、新しい生活様式を取り入れた取り組みを行いました。

2014年度から開始したふれあいの集い・ちどりは、利用者が主体となり、プログラムを決め、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。また、介護認定を受けられた場合、速やかに必要な支援へと繋げられるよう取り組みを行いました。

配食サービスでは、お弁当を専任職員が配達するという事で安心感を持って利用頂き、またお弁当を配達するだけではなく安否確認、コミュニケーションを図ることができ、家族との情報共有等も行っています。

2018年2月23日よりローソン東浦浦店内にケアローソンとして介護相談窓口を開設しました。介護支援専門員等の相談員が常駐し、介護相談援助業務を行い、必要時は、行政機関、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、担当介護支援専門員、事業所等に情報伝達、共有を行い、問題解決ができるように支援しました。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのが使命であるが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みたいと思います。

## 2021年度への課題及び展望

### (1) 特養部方針・計画

- 1-1. 利用者個々に起こりうる危険を認識し、原因究明・対策・予防処置を立案し、サービスの安全性・安心感の向上、リスク低減に努めていく。
- 1-2. 他職種間の連携・情報共有の強化、アセスメント力の向上により、利用者個々のニーズを汲み取り、実現に取り組む。
- 2-1. 実務に即した感染防止マニュアルの見直し、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式に合う新たなサービスの構築を行うことで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。
- 3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。
- 4-1. 主任・リーダー、サブリーダー等、正規職員、準職員、非正規職員の業務・役割の分担化を明確にしていくことで、人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 4-2. 目標達成・取組に対しての評価・フォローアップをコミュニケーションを交えて行い、必要時は指導を行う。また個々のスキル向上に向けて、個人目標、教育計画等を活用しながら取り組む。
- 5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。
- 6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率が意識しやすいよう努めていく。

### (2) 事務職員方針・計画

- 2-1. 安全・安心な生活環境を整えつつ感染対策をしながら日々の業務に努める。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れながら他部署と連携し環境整備に努める。
- 3-1. 施設の魅力や提供するサービス内容をいち早く発信をし千鳥会の良さをアピールする為、様々なSNSを使い情報発信を行うように努める。
- 5-1. 介護報酬改定に伴い加算取得するため情報収集に努め生活相談員と相談しつつ適正な収入の確保に努める。
- 6-1. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な収入の確保に努める。
- 6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し予算執行率を毎月確認し財務管理に努める。

### (3) 介護支援専門員方針・計画

- 1-1. 4半期に1つ以上予防処置を立案する。また立案した予防処置を定期的に見直し、サービスの質の向上に努める。
- 1-2. 他職種と連携・情報共有し、利用者のサービスの実現・生活の質の向上が図れるケアプランが作成できるよう努める。
- 2-1. 感染源を施設に“持ち込まない”を徹底するため、感染対策を常に意識し、体調管理を行う。
- 2-2. 利用者が日々喜びを感じられる環境提供ができるサービスを立案する。
- 3-1. フェイスブックやおたよりを活用し、千鳥会の取り組みや魅力を発信する。
- 4-2. 明確な評価ができる活動計画の設定と、結果や評価を考察して次の目標達成に向け意識の向上を図る。
- 5-1. 法令遵守に沿った体制づくりと加算取得に努める。
- 6-1. 収益に対して意識を持ち、安定した稼働率と経費削減に努める。

### (4) 介護職員方針・計画

#### 【介護主任】

- 1-1. 利用者の日常生活に安心感が得られるよう、危険因子を除去するための予防策を講じ、リスク低減に努めることで安全性を確保する。
- 1-2. 他職種間の連携・情報共有の大切さ・アセスメント力の向上を行うことで利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。
- 2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルの見直しを都度行い、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に対応し、利用者にとって温和な日常生活の提供が保持出来るよう努める。
- 3-1. 千鳥会の取り組みを多様な手段を活用し発信することに努める。
- 4-1. 各々の役職が責任を自覚して主軸となり、人材育成・組織風土作りに努める。
- 4-2. 明確な目標をもち、個々のスキル向上を目指し、個人目標、教育計画等を活用しながら、達成に向けた支援に取り組む。
- 5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。
- 6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率の確保に努める。

#### 【2階ユニット】

- 1-1. 利用者の生活の安心、安全を追求し、サービスの向上、リスクの低減に努める。
- 1-2. 1-2. 他職種との連携を意識し、利用者個々の想いを汲み取り、アセスメントの向上、QOLを高める。
- 2-1. 都度感染対策マニュアルを見直し、情勢等に対応した対策の徹底を図り、安心安全な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい様式を取り入れながら、新しいサービス等に取り組み、利用者の生活の充実を図る。
- 3-1. 千鳥会の施設での取り組みを外部などに発信し、魅力を伝えるように努める。
- 4-1. 役職の役割をしっかりと認識し、専門職の視点で指摘、スキルアップし合える組織作りを目指す。
- 4-2. 個人目標や教育計画を通して各職員が明確なビジョンを持って、スキル向上やフォローアップに努める。
- 5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。
- 6-1. 職員一人一人が数値化やデータ収集を意識し、稼働率、経費削減に努める。

#### 【3階ユニット】

- 1-1. 利用者が生活で安心して生活できるように危険予測を行い、リスクの低減に努める。
- 1-2. 1-2. 他職種との連携と情報共有を行い、またアセスメント力を向上する事で利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。
- 2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルにて感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れたサービス等に取り組み、利用者が穏やかに日々生活できるように努める。
- 3-1. ユニットでの取り組みを外部に発信し、千鳥会の魅力を伝えるように努める。
- 4-1. 役割を認識し、専門的な知識・技術をスキルアップし合える環境作りに努める。
- 4-2. 明確な目標を持ち、また計画的にスキル向上を目指し、個人目標や教育計画等を活用して支援する。

5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

6-1. 業務内容の見直し、数値化やデータ収集を意識し、経費削減に努める。

#### (5) 看護部方針・計画

1-1 利用者の安全・安心な生活を守るため、起こりうるリスクを認識し、事故の予防につなげる。

1-2 他職種間の連携・情報共有を重視し、利用者一人ひとりのニーズの尊重、生活の質の向上に取り組む。

2-1 感染症に対する正しい知識の習得、自身の健康管理、感染防止マニュアルを見直し、感染対策の徹底を図り、利用者の安全・安心な生活環境を支える。

2-2 新しい生活様式を取り入れた施設での生活の中に、利用者にとって、喜びや楽しみ、生きがいを感じられる生活環境の提供に努める。

4-2 個々のスキル向上に対して明確な目標を設定し、達成に向けて取り組む。

5-1 介護保険制度についての理解を深める。

6-1 働きやすい環境作り、業務内容の見直しに取り組む。また、適切な在庫管理を行い経費削減を目指す。

#### (6) 管理栄養士方針・計画

1-1. 食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、利用者や委託会社の調理業務に支障が発生しないようにする。

1-2. 利用者、家族と関わる際には、その人らしい生活を継続する為の情報を収集できるような関係を築き、食事等に反映していく。

1-3. 災害、食中毒が発生しても、加熱調理や水を使わないで提供できる食品を選定、3日間耐えることを想定とした備蓄食品を用意する。

2-2. 利用者が好む献立や希望する内容に近づけるような献立作成に努める。

3-1. ユニットで行う調理レク時、厨房が関わる際、スムーズに連携できるよう段取りし、SNS等に発信できるよう協力する。

4-1. 5-1. 職員間の情報交換・共有に努め、福祉制度の知識や栄養等のスキル向上を目指す。

6-1. 安心安全な食事提供を維持しつつ、安定した食材管理と無駄を無くし、経費削減に努める。

#### (7) 地域支援事業方針・計画

##### 【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

##### 「地域見守り事業」

地域住民が住み慣れた場所で安心して生活ができるように、特養の機能を活かした拠点づくり、地域支援（地域貢献）事業、地域見守り事業を展開する。

「目標値」 毎月登録者 10名

##### 「ふれあいの集い」

住み慣れた環境、地域での生活をできるだけ維持していけるように支援していく。また、利用者の心身の状況を把握し、早期発見、相談援助を行い、利用者が自立した生活を送れるように支援をしていく。自宅付近と施設間の送迎を行い、必要時は買い物支援、外出支援を通して楽しみを持っていただき、閉じこもりの予防、馴染みの関係を大切にしながら、生きがいのある人生を送れるようにします。利用者の状態変化、必要に応じて各関係機関と連携しスムーズなサービス提供に繋げて行けるよう支援します。

「目標値」

1年間の延べ利用者数 120名

##### 「配食サービス」

利用者が住み慣れた地域での生活が維持できるように支援していく。また、配食サービスを通して、利用者の心身の状況等についても確認し、必要時は関連機関と連携を図り、地域支援サービス、見守りの充実を図る。

「目標値」

1年間の延べ配食数 3200食

##### 「介護相談窓口」

##### 【事業目的】

地域の高齢者、又はその家族に対し、様々な相談に応じ、そのニーズに対応した相談援助を行い、必要時には各関係機関との連絡調整を行い問題解決に努めることを目的とします。また、サロン活動等を通して地域の方が気軽に集え、顔なじみの関係性ができ、必要時には相談援助ができる関係作りを目指します。

##### 【運営方針】

(1) 地域の高齢者、又はその家族に対し、介護に関する相談に応じ、ニーズに対応した支援方法を助言します。

(2) 相談内容に応じて、各種の保健、医療、福祉サービスが受けられる様、関係機関に連絡調整します。

(3) 要介護高齢者等の生活機能の低下を予防するという観点から、サロン等を通して介護予防啓発に努めます。

##### 【事業計画】

(1) 地域住民に的確な助言が行なえ、必要時には各関係機関と連携を取り、問題解決ができるよう責任をもって業務を行います。

(2) 地域の高齢者に気軽に相談していただけるような雰囲気作り、サロン等の開催を行い、啓発事業を展開、拡大することでインフォーマルサービスの活性化、地域力アップを目指していきます。

「目標値」

1年間の延べ相談件数 50件

## 津名デイサービスセンター

### 2020年度事業所総括

#### (1) デイサービス総括

1-1. リスクマネジメントについて勉強会を実施し、事故予防・事故対策について提案、実行する。事故防止、事故予防が効果的に実施できるよ

うに、情報共有を強化する。

→リスクマネジメントとして、気づいたことは職員同士で情報共有を行うなど、大きな事故に繋がらないように取り組むことが出来た。車両の車椅子固定についても再度確認、徹底ができ、より安全に利用できている。

1-2. 利用者一人一人のニーズを収集し、デイサービスでの役割作りに繋がれるようにプログラムを立案する。

→ご利用者へのアンケートを実施し、個々のニーズ把握を行った。また、個別の活動を行うことも少しずつできてきているので、来年度は、更に個別活動を進めていきたい。

2-1. 3-1. 3-2 多様な関係機関との連携を重視し、地域ニーズの把握、公益事業の展開など、地域との繋がりを持った事業所となるように展開する。

→新型コロナウイルス流行に伴い、地域との交流を行う機会が減少してしまったが、DVDを活用し、小学校の生徒と交流を図り新たな取り組みを行うことができた。

4-1. デイサービスの取り組みについて外部に発信できる機会を設け、サービスの質の向上に繋がると共に、ブランド力向上に努める。

→定期的に活動をFBにUPすることで、稼働率向上に繋がった。

5-1. 職員同士が気づいたことが気兼ねなく言え、働きやすい職場環境となるようにする。

→職場の雰囲気作りに、職員一人一人が意識をして取り組むことができた。

5-2. 6-1. 選んでもらえるデイサービスとなるように、1年を通して計画的に、目標を持って行動ができるようなチーム作りを行い、職員1人1人が目標に向かって取り組みができるようにする。

→新型コロナウイルス流行に伴い、新しい生活様式を取り入れた活動を行うことができた。

7-1. 7-2. サービスの充実、顧客満足向上、外部への発信を継続的に実施し、稼働率向上(収益向上)を目指す。制度に基づいた適切な運営を行い、必要時は改善を行う。

→継続的に外部への情報発信を行うことで、新規利用者を毎月獲得し、稼働率を向上することができた。

### (2) 生活相談員総括

1-1 アクシデント・インシデントの対策が、職員間で共有できるように、デイ会議やケース会議に取り入れる。

→デイ会議での共有はコロナウイルス感染予防の為に次第での開催になり、有効に活用することが出来なかったが、連絡ノートや朝礼で共有した。

1-2 利用者が主体となり、ご利用者自身がしたいことを選択できるデイづくりを行う。

→利用者の趣味などをアンケートで聞き取りを行った。また、3密をさせるため集団レクを中断し、小集団レクやリハレクなどを取り入れ実施することで喜んで頂けた。

2-1. 3-1. 3-2 通所連絡会に参加し、デイサービスに求められることを把握しながら他事業所との繋がりを持つ。

→通所連絡会へ数回参加でき、他事業所と共に地域のイベントへコロコロアートを通じて参加することができた。

4-1 デイの取り組みを発表することにより、津名デイの良さを外部に知ってもらう。

→コロナの影響で発表は実施されず。

5-1 コーチングの知識を深め、職員同士の信頼関係を築き、明るい職場づくりを行う。

→コーチングについて勉強することが出来なかったため来年度の課題にしたい。職員とのコミュニケーションを積極的に図ることができた。

5-2. 6-1 年間のイベント行事や、デイマルシェ、季節の行事等、ご利用者の楽しみになるような計画を行う。

→コロナの影響でイベントを行うことはできなかったが、新たな取り組みを考える良い機会となった。特に季節を感じてもらえるようなリモートなど好評だった。

7-1. 7-2 利用者の声を聴き、年間稼働率73%以上を目標とし取り組む。ご利用者の情報を多職種と共有、計画等を見直し適切に運営する。

→多職種と情報を共有し、利用者や家族の意向に出来るかぎり寄り添い支援することで毎月新規利用者を獲得することが出来、稼働率向上につながった。

### (3) 看護総括

1-1. リスクについて職員が今まで以上に敏感になるよう、記入用紙を他職種と相談しながら見直し、デイ独自の用紙を作成する。又、アクシデント・インシデントが挙げられた時点で、情報をいち早く共有できるように他職種と検討し、実施する。

→コロナの影響や職員不足もあり、会議や集まって話をする時間が取れず、記入用紙の検討など出来ずであったが、連絡ノート等を活用した。

1-2. 他職種と連携し、利用者のニーズを収集すると共に、疾患を考慮しながら1日の過ごし方をプログラムする。

→コロナ感染予防対策の一つでもあるが、相談し集団レクから個別レクへ変更。又体調等も考慮して、1日のプログラムを個別で考えていくようにした。

4-1. デイの取り組みについて、法人発表出来るように、相談員と協力しながら準備を進める。

→コロナの影響で発表は実施されず。

5-1. デイ会議を活用し、意見交換が出来るよう、デイ会議の次第を充実させる。

→コロナの影響や職員不足もあり、会議や集まって話をする時間が取れず、記入用紙の検討など出来ずであったが、連絡ノート等を活用した。

5-2・6-1. 職員に感染やその対策、疾患などについての知識を深めてもらえるよう勉強会を実施し、適切な感染対策の実施及び利用者に向けた援助を行っていただけるよう取り組み、稼働率アップ(選んでもらえるデイサービス)を目指す。

→密になる部分の対策を他職種と実施した。又利用者の状態に合わせた援助を提案でき、稼働率上昇した。

## 2021年度への課題及び展望

### (1) デイサービス方針・計画

1-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行い、安全に、安心してデイサービスを利用できるようにする。

1-2. 個々のニーズを把握し、利用者が主体的な活動、社会参加、生活の質の向上等が行えるサービス、プログラムを提供する。

1-3. 2-1. 感染対策マニュアル、災害時マニュアルの改訂、訓練等を通じて災害時にも対応できる体制づくりを行う。

<p>2-2. 新しい生活様式を取り入れた（三密の回避）サービス、活動の提供を行い、利用者満足度を高める。</p> <p>3-1. SNS を活用し、積極的な情報発信を行うことで、法人、津名デイ、千鳥会ゴールド、千鳥会在介のブランド力向上に繋げる。</p> <p>4-1 専門職、役職者の各々の役割、業務を明確にし、チームケアの中で、組織力向上と、良好な人間関係構築に努める。</p> <p>4-2. コミュニケーションを重視し、個々の想い、活動、目標が、部署内で共有でき、利用者・職員満足向上に繋がるよう支援する。</p> <p>5-1. 介護報酬改定の情報を収集し、適切な運営ができるように努める。</p> <p>6-1. 選ばれる事業所作りを引き続き行い、サービスの向上、稼働率の向上を目標に取り組む。</p> <p>（2）生活相談員方針・計画</p> <p>1-1. 気づきを予防処置として取り上げ、情報共有することでリスク回避を図り、アクシデントを予防していく。</p> <p>1-2. アセスメント力のスキルアップを目指し、個々のニーズを汲み取り、利用者が生き生きと活動できるサービスを考え提供する。</p> <p>2-2. 引き続き感染対策を行いながらも、利用者の声を聴き、新たな取り組みにも挑戦する。</p> <p>3-1. 6-1 日々の取り組みをデイ便りや SNS で発信できるように現場と協力する。また津名デイの強みや魅力を積極的にアピールすることで稼働率向上に繋げる。</p> <p>4-1. 4-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深める事で、他の職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるように努め、利用者の満足向上に繋げる。</p> <p>5-1. 介護報酬改定内容を正しく理解し、利用者家族へ説明、同意を適切に行う。</p> <p>（3）看護師方針・計画</p> <p>1-2・1-2. 他職種と相談し、インシデント・アクシデント・その他共有しなければいけない情報・個々が得た利用者のニーズや気持ちの共有方法を考え、対策や援助を実行することで、利用者にあったサービスやプログラムを提供する事。</p> <p>1-3・2-1. 感染対策マニュアルを基にした勉強会を実施し、災害訓練などに参加することで、実際のイメージ作りを行い、他職種と連携した行動がとれるように話し合う。</p> <p>2-2. 6-1. レクリエーション委員会を行い、3密回避が出来ているかを確認しながら、イベントを実施できるように他職種と連携し、計画立案・実施することで稼働率アップへとつなげる。</p> <p>（4）介護職員方針・計画</p> <p>1-1. 利用者の情報やリスクを、職員、他職種と共有を図り、さらに安心して過ごせるよう、ルール開発に取り組む。また、インシデント・アクシデントの職員と共有し事故防止に努める。</p> <p>1-2. 4-2 利用者個々の情報や、普段のコミュニケーションから個々のニーズを把握して、津名デイサービスで生きがいや喜びを感じられるよう個々にあったサービスを提供する。</p> <p>2-2. 季節に合った行事や、普段のレクリエーションを新しい様式を取り入れた内容で行えるよう職員間で意識したサービスを提供し、利用者の満足度を高める。</p> <p>3-1. デイでの普段の様子や、イベントまた津名デイ独自の活動など SNS を活用し情報を発信してブランド力向上を図る。</p> <p>4-1. 多職種や各職員の役割分担を明確にし効率よく業務を図ることで、活動しやすい職場づくりに努める。</p> <p>6-1. 利用者が満足し、津名デイを選んでいただける雰囲気づくりに努める。</p>
---

## 千鳥会居宅介護支援事業所（千鳥会在宅介護支援センター）

<p><b>2020 年度事業所総括</b></p> <p>1-1. 各担当ケースが問題なく実施されているか職員間で連携を行い必要時には助言、指導しリスク回避を行う。また、予防処置を提案しアクシデント・インシデント・クレームを防ぐ。</p> <p>→週 1 回ケース検討会議を行い各担当ケースの情報共有を行い、リスク回避を行った。</p> <p>1-2. 利用者・ご家族のニーズを的確に把握し、介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しその人らしい生活が実現するよう支援する。</p> <p>→利用者、家族のニーズ・各地区の性質を詳細に把握し、介護保険制度及び行政・地域資源・サービスを適切に提供し支援を行った。</p> <p>2-1. 3-1. 地域・行政・多職種との連携を深め、地域課題、資源開発を行い、地域づくりを行う。</p> <p>→全地区のケア会議には参加できなかったが岩屋地区以外は毎回参加し多職種との連携を行い地域課題、資源開発等を行い地域づくりに協働した。</p> <p>4-1. 千鳥会の取り組み等を積極的に外部に情報発信し PR に努める。また各会等で積極的に参画していく。</p> <p>→コロナウイルス感染症のため積極的な PR はできなかったが各会議等では積極的に参画した。</p> <p>5-1. 6-1 職員間の情報共有、連携を密にし、互いに切磋琢磨しチームの資質向上、人材育成を行う。</p> <p>→職員間の情報共有、連携を密に部署内のスキル UP を行うことができた。</p>
<p><b>2021 年度への課題及び展望</b></p> <p>1-1. サービスの「質」と「信頼性」を高めるために、予防処置を立案し、更なる改善に努める。</p> <p>1-2. 利用者のニーズと意思を尊重し、利用者の生活の質の向上に努め、自立心も高める。</p> <p>1-3. 利用者の災害リスクを把握し、災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。</p> <p>2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得つつ、気を緩めずにコロナウイルスへの感染対策を徹底し、業務に臨む。</p> <p>2-2. 「新しい生活様式」を取入れながらも、視点を変え、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。</p> <p>3-1. 各会議等で各事業所・提供するサービス内容等、積極的な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。</p> <p>4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。</p> <p>4-2. 実現可能な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努め、実績に繋げる。</p>

- 5-1. 2021 年度介護報酬改定法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。
- 6-1. 経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。各事業所、サービスの稼働率についても把握する。

## 千鳥会在宅介護支援センター

### 2020 年度事業所総括

- 1-2. 本人、家族のニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に情報提供、支援への繋ぎを行い、本人が住み慣れた地域で在宅生活が継続できるように支援していく。
- 介護保険外のインフォーマルサービス把握に努め、必要時にはインフォーマルな支援に繋げた。
- 2-1. 3-1. 介護保険制度だけにとらわれず広い視野でその方の取り巻く環境を評価し関係が途切れないように地域支援を行い、また制度で補えない課題等も地域と協働し地域づくりを行う。
- 地域との関係が途切れないよう地域へのフォローも行った。また、地域のいきいき 100 歳体操へも参加した。
- 4-1. 千鳥会の取り組み等を外部に積極的に情報発信し PR に努める。
- コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等で積極的に外部に PR する機会は減ったが、認知症サポーター養成講座を行い、法人の PR を行うことができた。
- 5-1. 6-1 職員間の連携、情報共有を密に行い部署内で協力し効率よく業務を行い部署内のスキルアップに努める。
- 部署内で行政・地域の情報共有を行い、また連携し業務を行った。
- 7-1. 7-2. 経費削減を意識し、適切な業務遂行を行い適正な収益を確保する。
- 常に経費削減に努め、委託業務を遂行。目標の訪問件数などの達成が行え、安定した運営を行うことができた。また必要時には居宅、介護サービスに繋ぐことができた。

### 2021 年度への課題及び展望

- 1-2. 利用者のニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ信頼関係を構築し住みなれた地域で在宅生活が継続できるように支援していく。
- 1-3. 2-1 防災や感染症について正しい知識を学びつつ情報収集を行い、行政や地域と協働し BCP 策定に参画する。
- 2-2. 新しい生活様式に合う新たなインフォーマルサービスの構築などを行い地域づくりを行う。
- 3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信し PR に努める。
- 6-1. 6-2. 経費削減を意識し適切な業務遂行を行い、適正な収益を確保する。

\*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

## 家族介護教室・家族介護交流事業

### 2020 年度事業所総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味のある方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに役立てていただけるよう配慮し、計画していましたが、緊急事態宣言、コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止せざるを得ない状況でした。

その中でも感染予防に留意しながら年間 8 回開催しました。参加する事で今までの悩みの解決方法を見つけることができ、視野が広がったとの意見も聞かれ、意義ある家族介護教室を開催することができました。

今後も感染状況を見ながら開催し、在宅介護においての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、今後も様々な角度からの内容を提供していきたい。

### 2021 年度への課題及び展望

2021 年度、家族介護教室及び家族交流事業においては以下の通りの内容を実施する。

感染症の状況により中止、回数減となる場合あり。

- (1) 座談会
- (2) 医療・健康
- (3) 作業療法、もの作り
- (4) 福祉用具
- (5) 様々な介護保険サービスについての説明
- (6) その他

\*現在介護されている方だけでなく、一般に介護に興味のある方など、一緒になって勉強したり、情報交換を行い、高齢者介護についての話し合いが行えるような雰囲気作りを心がけ、多くの方が参加できるように努めます。

\*家族介護者交流事業は、介護者同士が交流を深めるとともに、心身ともにリフレッシュ出来る企画、計画をします。

## 高齢者住宅等安心確保事業（淡路市委託事業）

### 2020 年度事業所総括

全世帯に週に1回定期的な訪問を行った。独居者で体調不良等の訴えの方には、湿布を貼ることで不安を取り除いた対応を行うなど、臨機応変に対応できました。全体的に単身者が多く、その中で認知症の出現により、介護認定が必要な方には、家族と連携し申請手続きを行い、小規模多機能のサービスに繋ぐなど、他機関とも情報共有、連携を行っています。また、高齢者夫婦世帯で、転倒を繰り返している方にも介護保険認定の申請手続きを行い、他職種連携のもと住み慣れた自宅での生活が続けられるように支援しています。

住宅機器の不備に関しては直ちに県や市に連絡し、対応を行いました。

新型コロナウイルスの流行に伴い自粛生活が続き、いきいき100歳体操が中断され再開できずに過ごされる様子も伺えます。担当高齢者住宅では、長期入院、死去、施設入所、家族との同居による退去が多い反面、新規入居者は遅滞気味で空室の多い住宅もあります。住人の中にはこのことに不安や寂しさを感じられている方もおり、この一面からみえる「今までに無かった入居者の空き問題」についても働きかける必要性が高まっている。

訪問、電話等での情報収集、状況把握、問題への気づき、改善が今まで以上に求められてきている。今後も入居者への定期的な安否確認を行い、課題については関係機関と連携し、日々の生活に不安が強い方には、在介、地域包括支援センター、社協、居宅介護支援事業所等と情報共有、連携を行い、自立した日常生活を送れるように努めたい。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのかが使命であるが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みたいと思います。

#### （1）高齢者住宅等安心確保事業

安否確認と生活指導相談などの訪問件数は3579件。生活指導相談5件。緊急出動43件、この緊急通報での出動は独居者で入退院後の体力減退で自宅での生活に不安、定期の水使用がままならなくなつての通報や、殺虫剤に反応する機器の為の出動などの43件です。住宅の住人も長期の入退院や高齢化が進んで、住宅内の安否確認・生活指導相談・緊急通報などの安否確認の継続を行い関係機関等と連携し、日々の生活に不安が強い方達には、地域包括支援センターや介護保険サービス・自費の訪問介護利用に繋げるように継続を図っていきます。

### 2021 年度への課題及び展望

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者のQOLの維持、向上。

1. 高齢者住宅入居者緊急時への24時間、365日対応。
2. 行政、社協、介護支援専門員、地域住民等との情報交換による連携。
3. 生活援助員としての基本サービス、力量の向上。
  - ・週1回以上の訪問もしくは電話での安否確認、相談、緊急時の対応の継続。
  - ・入居者の介護、医療等に関する生活相談、情報提供を行う。
  - ・入居者の生活上の問題点について行政、介護サービス事業所等の関係機関へ連絡し、適切な社会資源の利用や自立支援を促す。
  - ・教育訓練・研修による生活援助員の力量の向上を図る。不足している資質を把握し、向上できるようにする。
    - 「気づき」を築く感性の強化の為の教育訓練・研修への参加。
    - 組織内の連携向上による、事業活動の円滑化に努める。
    - コミュニケーションによる入居者との信頼関係の向上と、生活上の安心の確保に努める。

\*淡路市との委託契約の内容を基に組みを行う。

## 特別養護老人ホームゆうらぎ

### 2020 年度事業所総括

ゆうらぎでは、利用者が安全に安心して生活が送られるように毎年事故減少に向けて取り組んでいます。現在では、事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を作成しています。2020年度は利用者の状況も変わり、重大事故が5件発生してしまいましたが、アクシデントの件数は減少しています。今後、原因追及を行い反復的に同じ事故を繰り返さないように、継続的に事故防止に力を入れていきます。

2020年度は年度当初より緊急事態宣言が発令され、新しい生活様式というものができ、これまでの施設運営とは激変を余儀なくされました。その中で、今年度は当初に掲げた目標からの方向転換をしなくてはならなくなり、行事も規模の縮小、家族との交流行事もな感染対策の観点から、なしといったものになってしまいました。そんな中でも「施設内行事の充実」「余暇活動の充実」を各フロア目標に掲げ、例年以上の活動実績をあげることが出来ました。また、家族との交流は出来ないかと、ゆうらぎ・北淡荘としてLINEのアカウントを取得し、「オンライン面会」ができる環境を整えさせていただきました。アカウントを取得したことで、毎月配布している生活状況表にQRコードを掲載し登録して頂くところから始めましたが、現在の登録者は12名と伸び悩んでいます。ご家族の方へ周知を図り、オンライン・リモートでの面会の充実を図っていくことが今後の課題です。コロナ禍にありながら感染症の蔓延もなく、昨年度に比べ入院者が大幅に減少に至りました。日々のケアが行き届き、安全に生活できたことの証明ともなりました。入院者が減少したことにより稼働率が安定し、当初の予算通りの収益を確保することができ、施設運営もスムーズに行えたのではないかと思います。加算関係では、8月よりコロナ禍における収益確保としてショートステイ利用者の方に緊急受入加算を算定させていただきました。そのことでもより、収益の安定につながったのではないかと思います。

### 2021 年度への課題及び展望

2021年度は介護報酬の改定の年に当たります。加算要件を熟知し、少しでも取得できる加算を増やし、施設運営の安定を図っていききたいと思います。



<p>また、コロナ禍が終息を迎えた際には、地域サロンへの参加や学校への福祉教育への働きかけを行うことにより、より地域に根差した施設へと変化していきたいと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「コロナ禍における家族との関わり」についての取り組みを掲げ、一年を通じて行事・交流等にて家族・職員が一体となり、利用者へのケアを展開していく。</li> <li>○24時間シートの見直し、個々の生活リズムの再アセスメントを行い、個別ケアの充実を図る。</li> <li>○その為に専門知識（認知症ケア）を深めていき、予防処置の意識を高めることで重大アクシデント0件を目指す。</li> <li>○感染症の予防対策を実施し、施設内での感染症蔓延を防止する。また、定期的にマニュアルを見直し、新しい感染症が発生した際にも迅速に統一した対策が講じられるようにしていく。</li> <li>○施設内で行える新たな取り組みを増やし、コロナ禍においてもストレスを感じる事のない生活環境を整備し、利用者満足度を高めていく。</li> <li>○地域ケア会議への積極的参加。地域のニーズを把握し、事業所として何が出来るのかを考え、地域貢献に繋げていく。</li> <li>○ご利用者のニーズをいち早く察知し、事業所の質を高め、緊急・困難事例にも迅速に対応していけるようにする。</li> <li>○行事実施後には、すぐに広報媒体等にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。</li> <li>○将来的な人材確保の観点から、学校教育と連携し福祉分野を学生に聞いていただくことで、地域貢献に繋げていく。トライやるウィーク等の職場体験を通じ福祉に携わる喜びの発信を目指す。</li> <li>○内部コミュニケーションを充実させ、各自目標をしっかりと見据え、模範となる職員の育成を図る。</li> <li>○介護システム、オフィス等のアプリケーションを効果的に利用し、組織内情報交換の円滑化を行っていく。</li> <li>○内部研修の充実を図ると共に、外部研修（オンライン研修）への参加を意欲的に実施し、全職員のスキルアップを目指す。</li> <li>○全職員がコストに対する意識を持ちながら、業務に取り組めるよう、コストの「見える化」を行っていく。</li> <li>○ショートステイの質を向上させ、選ばれる事でショートステイ稼働率100%以上（空床利用含む）を目指す。</li> </ul>
---

## ゆうらぎデイサービスセンター

<p><b>2020年度事業所総括</b></p> <p>2020年度は、新型コロナウイルス感染症が流行し、社会全体が未知のウイルスの恐怖に翻弄され、デイサービスの運営にも大きく影響を受けた1年でした。当施設周辺でも感染者が発生したため、感染への恐怖から、定期的に利用されている方の中にもデイサービスの利用を控える方が居られ、また、新規に利用を希望される方も減少し、目標とした稼働率を大幅に下回りました。そのような中で、感染症対策として、年間を通してのマスク着用や、手指消毒等を徹底する事で、ご利用者の方には、ご不便、ご迷惑をお掛けしましたが、一人の感染症の発症者を出す事もなく、また、大きな事故の発生もなく、安心、安全な環境を整える事が出来たと思えます。感染症防止の観点から、計画していた外出行事を中止したり、施設内行事の規模を縮小したりし、様々な制約が求められる中でも、ご利用者の皆さんに楽しく過ごしていただけるような催しを企画して取り組み、多くの喜びの声もいただきました。</p> <p>2021年度は、新型コロナウイルスを含め、感染症の防止継続と、大幅に低下した稼働率の向上を目指すため、コロナ禍で楽しんでいただける行事を企画し、SNS等を通して地域へ発信する事で、選ばれる施設となるように取り組んでいきます。そして、ご利用者と職員が協力してこのコロナ時代を乗り越えて行きたいと思えます。</p> <p>この1年間で取り組んできたことを下記に記述します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各月ごとに教育訓練を実施。職員の能力向上に努めた。</li> <li>○ 感染症の防止を徹底しながら、ご利用者が、楽しめる行事や、レクリエーションを企画した。</li> <li>○ 淡路市の通所系の事業所が集まる会議へ参加し、情報の共有を図った。</li> </ul> <p>この結果として、本年度稼働率は72.1%、延べ利用者数は13455人となりました。前年度の年間実績から比べて延べ利用者数は、マイナス1300名となっており、1日平均約4.3名減少となっています。</p>
<p><b>2021年度への課題及び展望</b></p> <p>2021年度は下記の目標を設定し、職員一丸となり更なる利用者の確保を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症予防と、事故防止に取り組み、ご利用者が安全、安心して利用できる環境を作る。</li> <li>○ご利用者が楽しめる行事を企画し、SNSで情報を発信する事で、選ばれる施設となる。</li> <li>○職場内でのコミュニケーションを充実させ、コロナ禍でのストレス解消を図り、職員間の結束力を高める。</li> <li>○オンラインでの研修を含め、積極的に研修会に参加し、職員の資質向上を図る。</li> <li>○稼働率の目標を年平均80%以上とし、加算の取得にも努め、収益の向上を図る。</li> </ul> <p>以上の点について今年度より、ゆうらぎデイサービスセンターは取り組み、体制の強化を行っていきます。</p>

## ゆうらぎ訪問介護ステーション

<p><b>2020年度事業所総括</b></p> <p>訪問介護の現場では、常日頃から感染対策を心がけていますが、今年度は新型コロナウイルスの流行により、これまで以上の危機管理が求められました。「訪問時にウイルスを持ち込まない、受け取らない」をキーワードに対策を行いました。</p> <p>まず、利用者が、訪問介護員がウイルスを持っている前提で対応する。予防策を徹底する。利用者の状況に合わせて対応していく。何度も何度も研修を重ねてきましたが、訪問介護員の不安は尽きません。そんな時、宝塚市の社会福祉協議会の方々との交流（意見交換及び対策等、オン</p>
--

ラインで) する機会があり、お話をしているうちに不安は少しずつ、これでよかった、この方法で続けようと思えるようになりました。気が抜けない感染対策はまだまだ続きます。1 ケアごとの手洗い、訪問前後の手指消毒の徹底はもちろん、今、とるべき対策をこれからもその都度見直していこうと思っています。

また、事業所のパンフレットにもなる「へるばーだより」を発刊することが出来ませんでした。利用者とのコミュニケーションを取りながら、生活の質（自立した生活・支援方法）の見直しは今年度も継続していきます。日々ヘルパーは利用者と向き合う現場では、トラブルが多いです。ヘルパー同士のケアに対する考え方の違いなど、事業所内の軋轢を生みトラブルに発展・離職につながることも多々あり憂慮すべき課題となっています。アンガーマネジメントを学ぶことで怒りをコントロールし、現場でのモチベーションをあげていけるよう取り組んでいこうと考えています。

#### 2021 年度への課題及び展望

○利用者満足の向上を目指し、現状のケア、サービスの見直しを行い質の向上を図る。

⇒利用者ひとりひとりのサービスの見直しを行い、質の向上を図る。

○個別ケアの充実・認知症ケアの実践及び感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。

⇒アクシデントの発生を未然に防ぐように努める。また、1 ケアごとの手洗い、訪問前後の手洗い及び手指消毒の徹底で感染ゼロを目指す。

○内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上をさせ離職率の軽減を目指す。

⇒アンガーマネジメントを知り、日々の業務をはじめ生活の中に上手に取り入れ、職場内環境の向上を図る。

○職員の資質向上と職員倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修に積極的に参加する。

⇒職場内研修及び、オンラインでの研修に積極的に参加する。また、自己学習に取り組む。

## 養護老人ホーム北淡荘

#### 2020 年度事業所総括

2020 年度は、新型コロナウイルスの蔓延により、日常生活の価値観を変えた 1 年となりました。この感染症で世の中全体が甚大な影響を受ける事となり、北淡荘もその影響を受ける事となりました。入所者やご家族にとっても、今までの生活が一変し、今まで通り外出が出来ない・自由に面会が出来ないなど不便な生活を余儀なくされました。新しい生活様式が確立されていく中で、どのようにして入所者・ご家族の不安を取り除くか、コロナ禍の中で充足率をキープしていくのか、感染対策の強化などが課題となる 1 年となりました。入所者の方たちには、外出制限がかかる中、職員が代行し購入支援と言う形で、業務の都合上すぐには対応できないものの、入所者の要望に応える事が出来たと思います。ご家族の方たちもコロナ禍での施設での対応などに一定の理解を得る事ができ、面会は出来ないものの電話でのやり取りで、入所者の近況や施設での感染予防対策など説明することができ、トラブルなどに発展する事はありませんでした。

目標として月初満床を掲げていたのですが、コロナの影響もあり、行政も一時期、調査にも行けない状況等もあり、うまく稼働率をあげる事が出来ない月もありましたが、入所者確保に向けて行政機関と密に連絡を取り合い、また三職種協力して受け入れ体制を整え、年間を通して高い水準をキープする事が出来ました。

感染予防に関しても、職員の意識も変革し、今まで以上に強化し取り組みを行うことが出来、インフルエンザを含め、感染症の発症者はなく、集団感染ゼロを達成する事が出来ました。

#### 2021 年度への課題及び展望

2021 年度も新型コロナウイルスの終息も見えない中、環境は厳しい状況に置かれると思われませんが、入所者の安全確保、安心して北淡荘で生活が継続できるように取り組んでいきたいと思っています。

○予防処置・感染予防の意識を高め、重大アクシデントの件数減少、集団感染ゼロを目指す。

○「施設で過ごす楽しさ」を目的に、施設内環境・施設内行事を充実させ、利用者満足度に繋げる。

○緊急・困難ケースに可能な限り対応し受け入れを行い、安心して生活が出来る環境を整える。

○役職者としてのマネジメント能力の向上を目指し、事業所の目標とリンクさせた上で主任・リーダーへの資質向上・育成教育に取り組む。

○内部コミュニケーションの活性化を図り、職場内環境の向上、働きがいを高め、定着率を上げる。

○養護老人ホームの月初充足率 100% (168 名)、特定利用者の月初充足率 97% (58 名) を目指し併せて経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。

## 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

#### 2020 年度事業所総括

開設から 9 年が経ち、2020 年度は

\*サービスの質の向上に向けた体制整備の構築を行う。

\*地域共生社会に向けた取り組みを実施する。

\*職員の資質向上と職場環境の整備を行う。

\*安定的な収入の確保を図る。

を大きな目標として進めてきた。

『サービスの質の向上に向けた体制整備の構築を行う。』に関しては、会議や検討会、勉強会を定期的に行い情報発信、共有に努めながら組織的な体制の構築に努めた。また、個別での面談や聞き取りを基に業務内容や職場環境の改善を図り、サービスの質の向上に繋げる事ができた。ただ、人員不足や感染予防対策、対応などが重なり安定的なサービスの提供や体制の維持が不安定になった時期もあり、今後一層の部署間での連携や協力体制を強化していきたい。

『地域共生社会に向けた取り組みを実施する。』に関しては、これまでも関係機関や地域住民、ご家族、世代を超えた方々との交流を図りながら関係性を深めていたが、コロナウイルス感染拡大による面会制限や施設職員の外部との交流自粛などの制約を受けた事で2020年度予定していた取り組みや活動は予定通りに出来なかった。ただ、このコロナ禍の中での活動方法の模索、検討により施設からSNSを利用した情報発信の強化や様々な情報ツールを効果的に利用することで信頼関係や連携の維持を図ることが出来た。今後も継続的な改善を行い、繋がりのある関係性を維持していきたい。

『職員の資質向上と職場環境の整備を行う。』に関しては、感染予防対策として外部研修が中止となり、資格取得に繋がる講習が延期になるなど予定が大きく変わり柔軟な対応が出来なかった。また、介護用品やロボット等の展示会や見学会なども開催自体が無くなることも多く、環境整備の推進に繋がれなかった。

『安定的な収入の確保を図る。』については、4月から11月までは長期入居者の入院もありながら、入院者の空床利用を短期入所利用者に繋げて稼働は維持できていたが12月（冬季）に入り短期入所ご利用者の利用控えや中止、体調不良等により入院も目立ち、長期入居者の入院も重なったことで稼働率の低下に繋がった。また、入院先でコロナ感染予防対策としてPCR検査や病室隔離などの対応が都度行われており入院日数自体が以前に比べ長期化した。そのような状況の中で経費の節約や節減を図り、無駄な支出を減らすように努めた。

2020年度に関しては、これまで想定していなかった感染症リスクと戦い続けた1年であり、これからも形を変えて感染症と共存していかなくてはならない状況となっている。

また、ご利用者、職員共に感染予防を第一に考えたサービスや業務の見直し、改善を図りながら常に安心、安全なサービスの提供と地域や関係機関からも信頼、信用される施設運営が出来よう努めていきたい。

#### 2021年度への課題及び展望

来年度に向けては、今年度取り組んだ事の継続を図りながら更なる質の向上と改善を図っていききたい。

運営面においては、1年を通して目標の稼働率を達成できるよう部署間連携し、計画性を持って最大限のサービス提供を行い利用者満足の上昇を図ると共に業務改善や勤務体制の見直しや部署間連携の強化を図り、経費の削減や職場環境の改善にも努めていきたい。

また、施設内での運営や業務に留まらず、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底した上で家族や地域住民、関係機関との連携や情報共有を図り、地域に根差し「頼ることのできる施設」となれるよう、更には「ご利用者の生活がサービスの中で完結することなく、家族や知人・友人・地域住民との関係性の継続を図り、人と人が世代を超えた繋がりあるもの」となれるよう取り組んでいきたい

## 千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

#### 2020年度事業所総括

2020年度は昨年度と同様に通常規模、定員35名での運営となりました。1日の平均利用人数は24.5名で、昨年度から1日平均2名程度減少する形となってしまいました。当初予算の目標値では1日平均28名を想定していたので、予算・稼働率ともに大きくマイナスとなってしまいました。原因としましては、新型コロナウイルスの感染拡大が大きく影響していると考えられます。4月～5月の1回目の緊急事態宣言時は、事業としても感染拡大防止の観点から利用自粛を案内いたしました。宣言介助後は新規利用の受け入れ等により、数字が回復してきましたが、12月にはデイ利用者から新型コロナ陽性となられた方がおり、4日間の営業休止となりました。事業所内での感染拡大はなかったものの、感染者が出たことによって利用を休止される方もおり、稼働率が下がることになってしまいました。2回目の緊急事態宣言では大きな影響はなかったように思います。新規の利用相談は継続的にあるので、利用に繋げていくとともに、感染対策の徹底により、安心して利用いただける環境を整えていきたいと思っております。職員体制については4名の入職がありましたが、4名退職し、1名異動となり昨年度より1名減員となっています。新入職員の教育環境についても継続して勤務出来るよう、職員間での連携・協力体制を整えていく必要あると感じています。

サービス面では、利用自粛者への手紙や電話等の定期的な関わりで繋がりを継続出来るよう取り組みました。コロナ禍による感染対策については、パーティションの設置や、三密の回避、定期的な喚起やマスクの着用の徹底に取り組み、行事やレクリエーションの規模、内容を考慮して実施してきました。また、連絡帳を活用して、家族とのやり取りをしながら個別の対応でサービスの向上に取り組みました。継続している歩こう会では、参加者が増えていることもあり、より一層のやりがいと、意欲の向上に繋がられるよう達成記念品と設定し取り組んでいます。

外部への発信については、広報誌やライン・フェイスブックの活用、新聞社への取材依頼を行い、事業所のことを多くの方に理解していただけるよう継続して取り組んでいます。コロナ禍の中で、より一層の発信力の強化に取り組んでいきたいと思っております。

地域との交流については、直接的な交流は出来ませんでした。敬老会で近隣保育所とビデオレターやプレゼントの交換という形で交流を行いました。今後も継続して交流出来るよう、方法を考えていきたいと思っております。

#### 2021年度への課題及び展望

2021年度は介護報酬の改定があり、基本報酬のアップはありますが、入浴介助加算の実質マイナスと、コロナ特例の加算がなくなることで全体としてはマイナスとなる見通しです。感染対策を徹底しながらその中で出来ることを考え、ご利用者に満足していただけるサービスの提供に取り組むことで、ご利用人数の増員に繋がっていききたいと思っております。また、職員の異動もある為、ご利用者・ご家族、関係機関に迷惑をかけることのないよう、円滑に引き継ぎを進めていききたいと思っております。

## 小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

#### 2020年度事業所総括

管理者・計画作成担当の交代があり稼働率の安定が求められていました。

上半期は、新規登録者に比べ入院者等の占める割合が多くなり稼働率の減となりました。

登録者定員29名 一日定員18人の法令の中で定員を厳守する為、利用者の状況とサービス内容を確認し、ナイトデイ（泊りのみ）の人

員配置も考慮しながら登録者確保に努めて参りました。重度のご利用者の対応にも積極的な対応ができました。出来るだけの支援をご家族と連携をとる事により在宅支援に繋げられました。そんな中入院する事になるも本人様や家族様の希望を叶え、退院後も痛みの軽減を図り苦痛なく週末時期まで泊りを中心のケアでサービスの質の向上につながりました。

途中で介護看護体制加算も看護職員退職の為、配置が出来なくなり取りさげ体制加算を算定できずとなる。その後看護師の入職 2 名もあり専門職によるケアの在り方など低下する事なくサービスの継続を続行でき、ご利用者、ご家族に迷惑また不安をかける事なく介護職員間の連携でサービスの質を落とす事なく支援ができました。

下半期は、登録依頼も前半に比べ増となり、登録人数 26 人となりました。登録者の受け入れ状況も続き、今まで培ってきた利用者対応や退院支援時、他事業所では出来ない家屋調よりの関りで自宅清掃も、日常生活がスムーズに展開できる体制の確立を踏み込んでサービスの展開や訪問支援の柔軟な工夫でサービスの質向上ができました。又そのような積み重ねで地域からの信頼を得、多機能サービスの機能を発揮できました。

新型コロナ感染においては、体調の変化には慎重な対応で予防に心掛けました。

感染時で制限される事が多々あり取り組める行事も狭まれた一年でしたが、出来る事、喜んで頂ける内容を提供し、Facebook 等の情報発信で喜びの声を聞くことができました。又ご利用者・ご家族にも感染予防への理解も得ながら連携を図っていき、感染拡大防止にご協力を得ながら関わり支援に結び付けていきたいと考えます。

#### 2021 年度への課題及び展望

令和 2021 年度は、管理者・計画作成担当者の交代があります。

介護福祉士の専門職員の増により事業所として寄り一層飛躍の機会となると考えています。柔軟なサービスの継続と困難者受け入れ体制の確立に向け、職員教育等で支援方法や取り組みにおいても更なるチーム力の向上を目指していきます。

## ちびっこランドちどり

#### 2020 年度事業所総括

これまでちびっこランドちどりは、マンションの一室で保育事業を行って参りましたが、4 月より新しい園舎に移転し、新しいちびっこランドがスタートいたしました。しかし、オープン前から新型コロナウイルス感染症が流行し始め、内覧会・記念行事の中止、開園以降も登園自粛といった感染防止策が講じられ、新設オープンという晴れ舞台がコロナの影響と重なってしまい、少し寂しい思いでのスタートとなりました。子どもの健康のために仕方のないこととはいえ、これまでできていたことができなくなるのは、少しさびしい感じもしましたが、安心・安全な保育環境に努め、職員一丸となって新しい生活様式への切り替えを行って参りました。

保育の現場は、予防対策として言われている「3 密」を避けることが難しく、絶えず密着状態での環境の中に置かれています。そうした中、いかに予防に努めるか職員と話し合い、マスクの装着・手洗い・消毒・換気に努め、保護者へも感染予防の注意喚起等のご協力をお願いし、感染症への予防徹底を行って参りました。幸い、園関係者、保護者間での感染症発症者はなく、無事に年度末を迎えることができたことはとても喜ばしいことです。毎年流行するインフルエンザや胃腸炎などの感染症の発症もなく、日頃の予防対策の効果であると思っております。

新しい園舎になって保育スペースがひろくなり、これまで動きに制限があった表現あそびや音楽遊びなどがのびのびと実施することができるようになり、保育の幅も広がりました。

0 歳児は初めて親元から離れて過ごす環境に不安で泣く子もいましたが一人ひとりの関わりを大切に、安心して過ごせるように環境を整え、保育の信頼関係を築き個々の発達に合わせ、ゆったりと関わることを大切に、抱っこやおんぶなどのスキンシップを十分に行い、子どもたちが安心して保育生活が過ごせるように心がけました。年度末になる頃には、自我も芽生え「何でも自分で」という思いが見られるようになり、遊びや食事の仕方などに成長が見られて参りました。

1 歳児に関しては一番人数も多く手がかかる月齢児で、一人遊びから友達への興味・関わりへと遊びの幅が広がる中で、うまく言葉がでず噛みつき、ひっかくといったトラブルも多く、その都度職員間で話し合いながら環境や生活の流れを見直し対策を考えました。気持ちを受け止め言葉で丁寧に知らせていくことで自分の思いを伝えられるようになり年度後半には集団遊びなど、友達と遊ぶことの楽しさを感じられるようになって参りました。食事面では、咀嚼の未熟さ、好き嫌いの多さが問題でしたが、一人ひとりに合わせまずは楽しく食べることを大切に、少しでも食べることができたら大いに褒め、食べることへの意欲を育てていくことで、食への関心につながっています。

2 歳児は身の回りのことは一人ひとりに合わせた援助や見守りを行うことで着脱、靴、靴下を履く、服やタオルを畳む、降園準備をする、といった「できること」が増えていきました。自己主張もはっきりと現れ、トラブルの原因となることが多いですが、言葉できちんと伝え向き合い、なぜいけない事なのか理由を伝えて理解する力をつけて行けるように援助を行っています。

行事計画は、四季を通して多彩な行事を職員間で話し合い、コロナ渦でも職員と子ども達が心から楽しめるようにと作成、実施しました。保護者の方からも、行事に対して喜びの声も沢山いただくことが出来、それらは職員にとって次への意欲となりました。また、毎年恒例となっている他事業所とのふれあい行事への参加ができなくなり、コロナ渦ならではのふれあいの仕方に工夫をし、ガラス越し面会等を行いました。ガラス越しにご利用者と手を合わせる子どもたちは、いつもと違った感覚でふれあいを楽しみ、また利用者の方も直接触れることができないもどかしさだけでなく、「またいつ会える？今度は直接会えるといいね」といった次への期待を抱いてくださり、生活に張り合いを持っていただけたと思います。

一時保育を利用された方の口コミで、新規の一時保育登録者も増え、地域における子育てニーズを把握しながら、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上に努めてまいります。

#### 2021 年度への課題及び展望

令和 2 年 4 月 1 日に新施設をオープンし一年が経ちました。淡路市への移住者が増えたことにより施設の問い合わせや一時保育登録者の増加とともに、たくさん保護者の方と接する機会も増え、一つひとつ家庭によって様々なニーズがあり、保護者の思いにどれだけ寄り添えるか今後の保育者に求められて参ります。小規模保育のメリットを活かし、保護者に対する支援（地域の子育て支援への対応）を行政と連絡を密に行いながら、可能な限り努めていきます。また、感染症予防や、防災・防犯・自然災害等に対しての知識を高め、安心・安全な保育を提供します。

## グループホームしおさい

<b>2020 年度事業所総括</b>
<p>2020 年度は全国的な新型コロナウイルス感染症拡大にともない、事業所運営、ご利用者の生活において、常に感染予防対策を念頭に置きながらの日々となりました。地域との交流については、秋祭り開催中止を含め直接的な関わりの機会を積極的に設けることはできませんでした。ご家族との交流面会においては、厚生労働省や兵庫県、加盟するグループホーム協会、法人の対応の指針を目安として、ご家族に理解を得ながらの対応となりました。そんな中でも感染予防にあたりながら、ご利用者とご家族の関係性を大切にし、地域の感染状況をみながら十分なソーシャルディスタンスのもと、直接顔を見ての体調の確認やオンライン面会導入実施も行っています。この機会に事業所のオンライン化のため、インターネット回線を光回線に変更。法人や地域への会議についても、オンライン対応が可能となりました。また情報発信としては、従来の地域に向けた社会福祉協議会広報誌や Facebook に加え、オンライン面会用に開設した LINE を使用した家族限定の情報発信も行っています。</p> <p>2020 年度より管理者の変更もあり、従来、事業所として積み上げた認知症対応型共同生活介護としての取り組みや方向性は維持しつつ、原点回帰として認知症への理解共感と利用者支援、ケアに活かすことにあらためて取り組んでいます。月 1 回の職員会議での勉強会や、個々のケースを通して「若い」や「認知症」の変化について、今一度の学びを深めています。運営面においては、職員ご利用者との感染症予防対策を図る中、ご利用者の体調の維持も図れ、入居稼働率も目標の 97% を維持できています。収支運営は稼働目標を達成しても、難しい状況は続きますが、引き続き、ご利用者へのよりよい支援が結果として、安定した事業所運営につながるよう努めていきます。</p>
<b>2021 年度への課題及び展望</b>
<p>2021 年度は、ユニットごとにおける計画作成担当者を中心としたケアマネジメントの確立、看護師の配置により、ご利用者の健康管理面と感染症予防の充実を図っていききたいと考えています。長年、地域に根差した認知症共同生活介護としての在り方を模索してきましたが、事業所力の向上により、その役割や機能が果たせるようにしていきます。</p>

## しおさいデイサービスセンター

<b>2020 年度事業所総括</b>
<p>2020 年度当初より新型コロナウイルス感染拡大状況に伴い、共用型であり入居者とともに過ごすデイサービスについては、積極的な受け入れが行えない状況でした。また十分な職員配置に至らず、年度当初はご利用者が一名の状態でした。そのご利用者も在宅での生活が難しくなり、老人保健施設入居となった 12 月からはご利用者がいない状況であります。地域からは認知症対応に特化したデイサービスへの期待も強く、新型コロナウイルス感染状況を見ながらも、稼働体制を整えていく必要性を感じています。</p>
<b>2021 年度への課題及び展望</b>
<p>2021 年度は、職員体制の充実と兼務要件の緩和等もあり、稼働体制を整えていきます。また地域における重要な社会資源として、同じ圏域のデイサービスの休日の営業なども実施し、その役割を増していきたいと考えています。</p>

## 小規模多機能型居宅介護事業所 めくもり

<b>2020 年度事業所総括</b>
<p>事業運営では、前年度、平均登録者 23 名から 20 名となりました。3 月末現在の登録者は 21 名。新規登録者は 4 名、登録解除者は 6 名。登録解除後の行き先としては、入院、老人保健施設、島外の入居施設となっています。新型コロナ感染流行により、日々の感染予防の徹底に努めました。幸いにもご利用者、ご家族、職員の感染者は 0 名でした。新規登録者では、ご利用者の状況・ご家族の希望により他の在宅サービスからの移行がありました。また、訪問看護を利用する利用者も増えました。2020 年度もめくもりしてできる限りの柔軟な対応を行ってきました。</p>
<b>2021 年度への課題及び展望</b>
<p>新型コロナ感染症流行が続くものと予想されますが、終息の出口も見えつつあるように思われます。私たちは、感染予防を徹底し安全な事業運営を続けていけるよう努めます。サービス提供に於いては、ご利用者、ご家族頃のケースの状況やニーズに応じたできる限りの柔軟な対応を行っていきます。現状下では外出行事などにはできない状況にありますが、ドライブなどを取り入れ、また施設内での行事を工夫し、めくもりを利用する事で楽しみを持てるように努めていきます。職員に於いては人材不足の中での貴重な職員として働きやすい職場環境となるよう努めます。</p>

## 佐野デイサービスセンター

<b>2020 年度事業所総括</b>
<p>今年度はコロナで始まり、コロナで終わったような 1 年間でした。コロナによる利用自粛も多くありました。単純に利用者数が減ってきています。佐野デイとして、今後の事業展開、経営面を考えていかないといけないと思う 1 年でした。そんな中でも、利用者からの喜びの声が月 2 件以上あったのは良かったと思います。今後も喜んでいただけるサービスの提供に努めてまいりたいと思います。淡路市通所連絡会のコロコロアートコンテストで淡路市内 14 事業所中、2 位になれたのは本当にうれしく思いました。こういった形で淡路市内のデイサービスを盛り上げていけたらと思うので、包括や社協、ケアマネなどとの連携も大事にしながら、本人や家族などの声も聞いていける事業所でありたいと思います。</p>
<b>2021 年度への課題及び展望</b>
<ol style="list-style-type: none"><li>1.品質保証委員会を開催し、サービスの質の向上を図ります。</li><li>2.SNS・広報誌を活用し、社会に情報発信を行います。</li><li>3.職員の声を聴き、柔軟な対応をとり、働きやすい環境づくりを行います。</li><li>4.法令に関する勉強会を行い、コンプライアンスの徹底を図ります。</li></ol>

## 千鳥会福祉用具貸与事業所

### 2020 年度総括

北淡荘のご利用者を中心に福祉用具を貸与してきました。1年間で15名の利用者に福祉用具を貸与することができました。また、アセスメント等を行いながら、ご利用者やケアマネージャーと連絡・連携をとり、ご利用者の状態に合わせた福祉用具の貸与を実施してきました。

今後もご利用者の状態にあった福祉用具を選定し、日常生活を有意義に過ごしていただけるお手伝いをしていきたいと思っています。

### ※ 年間集計（月別）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
前月数	4	5	5	6	7	8	12	12	12	11	9	9	100
新規	1	0	1	1	1	4	1	0	0	0	1	2	12
終了	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	5
計	5	5	6	7	8	12	12	12	11	9	9	11	107